

平成28年度関東倶楽部対抗第2ブロック大会 組み合わせ及びスタート時間表

(参加者 17倶楽部・102名)

期日：6月23日(木)

場所：三井の森蓼科ゴルフ倶楽部 からまつ・あかまつコース

(18ホール・ストロークプレー)

関東ゴルフ連盟

1番(からまつコース)よりスタート

Aクラス

組	時間	氏名	倶楽部	氏名	倶楽部	氏名	倶楽部	氏名	倶楽部
1	7:30	北原 弘	伊豆にらやま	稲富 君夫	富士	梅原 豊司	富士宮		
2	7:39	竹井 輝雄	昇仙峡	野澤 文治	塩嶺	小林 宣章	あづみ野	井端 和生	大熱海国際
3	7:48	北島 直之	伊東	片野 由次	オリムピック	西田 豊明	富士小山	西澤 健司	穂高
4	7:57	小林 祺一郎	富士チサン	川合 文男	立科	座光寺 透	諏訪湖	中山 敏夫	上田丸子グランヴィリオ
5	8:06	山口 栄	都	浜 整之介	三井の森蓼科	丹野 富壽	伊豆にらやま	中川 雅義	富士宮
6	8:15	塩原 研治	塩嶺	向笠 照夫	大熱海国際	白浜 茂靖	オリムピック	横澤 和生	穂高
7	8:24	吉越 修	立科	村田 稔	上田丸子グランヴィリオ	箱山 勤	三井の森蓼科	山崎 徳雄	富士
8	8:33	山口 賢一郎	富士小山	岩原 厚史	あづみ野	竹安 秀人	伊東	大間 正	昇仙峡
9	8:42	呉本 生福	諏訪湖	中井 教尋	富士チサン	佐藤 隆	都	野上 直彦	伊豆にらやま
10	8:51	山本 哲正	大熱海国際	桑田 裕治	昇仙峡	竹内 正次	富士小山	今井 博之	立科
11	9:00	杉山 満	富士	藤本 正三	都	渡部 千秋	塩嶺	近井 保之	伊東
12	9:09	勝家 哲夫	穂高	呉本 公太	諏訪湖	森下 修至	三井の森蓼科	加藤 至康	富士宮
13	9:18	原田 英男	あづみ野	榎本 幸和	オリムピック	渡辺 元嗣	富士チサン	佐藤 和久	上田丸子グランヴィリオ

10番(あかまつコース)よりスタート

Bクラス

組	時間	氏名	倶楽部	氏名	倶楽部	氏名	倶楽部	氏名	倶楽部
14	7:30	岩崎 寛之	伊豆にらやま	宮島 一馬	塩嶺	上條 寛	オリムピック		
15	7:39	田中 孝幸	立科	竹澤 功泰	三井の森蓼科	渡邊 真羽	富士	松元 昌史	あづみ野
16	7:48	中村 敦史	富士小山	小林 浩之	諏訪湖	中跡 朝臣	富士宮	中村 正美	大熱海国際
17	7:57	白石 栄治	穂高	一之瀬 方賛	上田丸子グランヴィリオ	高城 正男	昇仙峡	宮下 健	伊東
18	8:06	新海 和樹	富士チサン	赤坂 昇	都	工藤 和彦	伊豆にらやま	森村 光二	あづみ野
19	8:15	山村 禎彦	都	伊藤 啓二	穂高	糸井 正芳	富士	高山 卓士	大熱海国際
20	8:24	田京 秀一	伊東	堀 正隆	三井の森蓼科	土井 致萬	富士宮	垣守 博	富士チサン
21	8:33	百瀬 一男	オリムピック	手塚 大輔	昇仙峡	宮下 淳志	立科	茅野 弘喜	諏訪湖
22	8:42	続木 良博	塩嶺	釜谷 正宏	富士小山	翠川 雅人	上田丸子グランヴィリオ	小島 哲志	伊豆にらやま
23	8:51	井原 孝浩	大熱海国際	手塚 久仁彦	立科	工藤 哲人	富士	秋山 佳輝	伊東
24	9:00	藤森 勇一	諏訪湖	長友 健太	富士宮	小林 賢三	オリムピック	堀 徹	上田丸子グランヴィリオ
25	9:09	柴田 修	昇仙峡	前山 正隆	富士小山	星野 吉計	都	矢下 博之	塩嶺
26	9:18	宮坂 好敏	三井の森蓼科	柏原 弘信	穂高	川澄 豊	あづみ野	飛田 博也	富士チサン

競技委員長 大橋正明

平成 28 年度 関東倶楽部対抗第 2 ブロック大会

開催日 : 6月 23 日(木)

開催コース : 三井の森蓼科ゴルフ倶楽部 からまつ・あかまつコース

本競技は日本ゴルフ協会発行のゴルフ規則とこのローカルルールと競技の条件を適用する。

本書に記載の無い事項や追加変更がある場合は競技規定やプレーヤーへの通知文書、または競技会場での掲示物に掲載されるので必ず参照すること。

ゴルフ規則によって別に定められている場合や本書に罰が記載されている場合を除き、このローカルルールと競技の条件の違反の罰は、「2 打」とする。

ローカルルール

- アウトオブバウンズ(規則 27-1)
アウトオブバウンズの境界は白杭をもって標示する。
- ラテラル・ウォーターハザード(規則 26-1)
ラテラル・ウォーターハザードは赤杭または赤線をもってその限界を標示する。線と杭が併用されている場合は線がその限界を標示する。
- 修理地(規則 25-1)
修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を定める。ただし、次のものを含む。
 - パッティンググリーンの前後のペイントマークを含み、スルーザグリーンの芝草を短く刈った区域にあるヤーデージマーキングペイント(スタンスへの障害は除く)。
 - スルーザグリーンの張り芝の継ぎ目(スタンスへの障害は除く)
- 動かさない障害物(規則 24-2)
 - 排水溝
 - 人工の表面を持つ道路に接した排水溝(その道路の一部とみなす)
 - 動かさない障害物と白線でつながれている区域(その動かさない障害物の一部とみなす)
- コースと不可分の部分
 - 樹木やその他の恒久的な物件に巻きついたり、密着させてあるもの。
 - ウォーターハザード内にある人工の壁や杭でできた構造物。
- ホールとホール間の白杭
15 番と 16 番ホールの間の白杭を結ぶ線を越えていった球は、球が白杭を結ぶ線の向こう側のコース上に止まっている場合でも、アウトオブバウンズの球とする。
- 防球ネット
防球ネットに球が近接しているためにスタンスや、意図するスイングの区域の妨げになる場合、規則 24-2b(i)により処置するときは、その障害物の中や下を通さずに救済のニヤレストポイントを決めなければならない。

距離表

HoleNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	OUT
AクラスYards	527	380	158	362	418	409	501	150	400	3305
BクラスYards	553	396	168	389	442	409	518	150	400	3425
Par	5	4	3	4	4	4	5	3	4	36

10	11	12	13	14	15	16	17	18	IN	TOTAL
337	491	384	312	130	378	334	148	511	3025	6330
363	535	404	324	160	413	381	206	511	3297	6722
4	5	4	4	3	4	4	3	5	36	72

競技の条件

1. 参加資格

プレーヤーは競技規定に定められた参加資格を満たさなければならない。

2. 委員会の裁定

委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。

3. 使用クラブの規格

『適合ドライバーヘッドリストの条件・付属規則 I(B)1a』を適用する(ゴルフ規則 176 ページ参照)。

4. 使用球の規格

『公認球リストの条件・付属規則 I(B)1b』を適用する(ゴルフ規則 177 ページ参照)。

5. ゴルフシューズ

正規のラウンド中、プレーヤーが金属製・セラミック製、または委員会がそれと同等と認めた鋳を有するゴルフシューズを使用することを禁止する。この条件の違反の罰は競技失格。

6. プレーの中断と再開

(1) 通常のプレーの中断(落雷などの危険を伴わない気象状況)については、規則 6-8b、c、d に従って処置すること。

(2) 険悪な気象状況にあるため、委員会の決定によりプレー中断となった場合、同じ組のプレーヤー全員がホールとホールの間をいたときは、各プレーヤーは委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。1 ホールのプレーの途中であったときは、各プレーヤーはすぐにプレーを中断しなければならない。その後、委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。プレーヤーがすぐにプレーを中断しなかったときは、規則 33-7 に決められているような罰を免除する正当な事情がなければ、そのプレーヤーは**競技失格**となる。

険悪な状況による中断中は、委員会がオープンと宣言するまで、すべての練習施設はクローズとなる。クローズとなった練習施設で練習しているプレーヤーは練習を止めるように要請される。その要請に従わなかった場合、参加を取消しとすることがある。

(3) プレーの中断と再開の合図について

通常のプレー中断 : 短いサイレンを繰り返して通報する。

険悪な気象状況による即時中断 : 1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。

プレーの再開 : 1 回の長いサイレンを鳴らして通報する。

と同時に、本部より競技委員を通じてプレーヤーに連絡する。

7. 練習

ホールとホールの間での練習を禁止する(規則 7-2 注 2)『付属規則 I(B)5b』(ゴルフ規則 181 ページ参照)。

8. キャディー(規則 6-4 注)

正規のラウンド中、プレーヤーが委員会によって指定された者以外をキャディーとして使用することを禁止する。この条件の違反の罰は『付属規則 I(B)2』を適用する(ゴルフ規則 179 ページ参照)。

9. 競技終了時点

競技委員長の成績発表がなされた時点をもって終了したものとみなす。

注意事項

1. 競技の条件 5 項において規制されるシューズ以外でもパッティンググリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
2. 競技委員会は競技中を含めいつでも、出場にふさわしくないと判断したプレーヤーの参加資格を取り消すことができる。
3. 打放し練習場においては備付けの球を使用し、スタート前の練習は 1 倶楽部 150 球を限度とする。

競技委員長 大橋正明